

朝風

第7号

発行 仙台市スポーツ少年団
責任者 広報委員会
印刷 (有)協和プリント



(平成13年度)

団員数	281名
指導者	7,298名
指導者	1,279名

新米の本部長です！



仙台市スポーツ少年団
本部長 筒井久美子
(うさぎ年・やぎ座)

本年四月委員総会で選任されました、新米の本部長です。

前菅原壽本部長には永年にわたり仙台市スポーツ少年団の礎を築かれた功績に深く敬意を表します。さてスポーツ少年団は、青少年期における人格形成・発育発達期にある青少年少女たちの健康な身体と心を育てることにあると思います。そのための事業として、各種交流会や、リーダーの育成事業、又少年団を支える母集団の研修会等が計画実施されています。それぞれの事業をよりいっそう充実させるために各委員会が反省、検討し次年度に引き継ぐ予定です。

団員七、三〇〇名、指導者一、三〇〇名を数えるスポーツ少年団であります。全市民的な事業は必要最小限にします。区毎の事業を充実させ、少年団の活動がより一層子供たちに見える事業に展開していかなければ、魅力ある少年団としての発展は考えられません。そして将来的には全市民的なもの(例えば交流会)につなげていければと思っています。

平成十四年度より学校は週五日制となり、子供たちの余暇活動の時間が大幅に増えてまいります。

平成十二年九月に文部省(現文部科学省)よりスポーツ振興基本計画が発表になり、生涯スポーツ社会の実現に向けた総合型地域スポーツクラブの全国展開が始まるうとしており、スポーツ少年団は基本的なクラブ組織にスムーズに移行できると考えております。指導者、母集団の皆様には、原点に立ちもどり勝負にこだわることなく多くの友達とスポーツの交流等を通して、友情の輪が大きくなることの出来る活動を、考えていただきたいと思っています。

今後、より内容を充実させて、子供達の生涯にわたるスポーツ活動の基本を身につけさせ、将来に夢を持たせてやりたいと考えています。地域に密着した少年団活動に皆様のより一層の協力をお願いいたします。

平成十三年度入団式

二十一世紀仙台市スポーツ少年団の記念すべき幕開けは、五月十二日(土)仙台市体育館から場所をシェルコムせんだいに移しての入団式が盛大に開催される事になりました。

屋内のグリーンの人工芝がひとときわ目にも鮮やかに、行進曲の演奏に合わせ泉区少年団のプラカードを先頭に今年度新たに加わった新田卓球、燕沢ジュニアバドミントン、根白石ウイングスの三少年団を含め八十六の単位スポーツ少年団がスタンドの指導者、母集団の皆さんからのあたたかい声援と手拍子

で、カラフルなユニホーム姿で場内を一周堂々と行進する中にピカピカの一年生と一目で分かる新団員、ダブダブなユニホーム着用、足並みを揃えようと駆け足で先輩に合わせようとする姿はほほえましく見えました。

お祝いには藤井仙台市長、阿部教育長、山田仙台市体育協会副会長、鳴海生涯学習部部長、氏家仙台市スポーツ課長がお見えになられ、スポーツを通じて健康な身体と心を育成し友愛の輪を広げるとともに今後の団活動の発展と励ましの言葉をいただきました。続いて平成十二年度各団において模範的な一〇八名の団員に対し、筒井本部長より表彰状・メダルが授与されました。また新しく加入した三団体には本部から団旗が贈呈され、仙台市スポーツ少年団の仲間入りをしました。

式典終了後ランドゴルフ、キックターゲット、ストラックアウト等専門種目を越えた少年団同志のゲームで交流をさらに深め親睦と融和を図る事が出来ましたが、参加者は八十六名と少なく今後はより多くの皆さんの参加を期待致します。

この企画をしてくれたのはジュニア・リーダーの皆さんでした。次年度の入団式及び交流会にはより多くの団体の皆さんが参加されるよう指導者の方々に尚一層の協力をよろしくお願い致します。

入団式参加団

- 団員 一、四六四名
- 指導者 二〇九名
- 母集団 四〇四名



シェルコムせんだい

***** 歓迎 *****



平成十三年度・第十五回スポーツ少年団交流
 八月四日(土)～六日(日)に開催されました。
 白老スポーツ少年団からは、九団・一五五名
 (野球・バスケット・サッカー・水泳)
 仙台市スポーツ少年団から、一六団・四四六名
 (野球・バスケット・サッカー・バレー)が、初日、
 シェルクムせんだいにおいて、開会式を行いました。

白老町の歴史

歓迎のことば

仙台市長 藤井 黎

「北海道にある、元気まち」白老町スポーツ少年団の皆さん、ようこそ「杜の都」仙台にいらっしやいました。一〇〇万市民を代表しまして、歓迎を申し上げます。

仙台藩が、白老の地に元陣屋を築いて以来の深い歴史的つながりのもと、白老町と仙台市は、相互に、教育・文化・産業・経済など友好的交流を続けております。

スポーツ少年団交流会は今回で十五回を数えます。小さな使節団による大きな交流は、未来にわたっての確かな友情の掛け橋として力強く感じます。

今回参加されます子どもさんの健やかな成長を祈念しますとともに、歴史姉妹都市提携二十周年をステップに、さらなる友好と理解を深め、相携えて発展することを念願しまして、歓迎のことばといたします。

仙台市と歴史姉妹都市白老町のスポーツ少年団の交流を通して相互のまちの理解と友好を深めると共に、スポーツ少年団活動の一層の充実をはかるとい



う趣旨で始まった交流も、姉妹都市提携二十年となることから、この交流会も一つの節目を迎えることになりました。
 スポーツ交流の前に、保護者・指導者達との懇親会をハートフル仙台において、九十七名出席で、会費制で行われ、明日からの交流に思いをはせながら自己紹介。仙台からは、南京玉すだれ、すずめ踊りなどが披露されました。

仙台交流の思い出

白老グッピー少年団
六年 山埜 拓人

僕は、今回はじめて仙台交流に参加しました。行く前は、仙台はどんなところなんだろうと、とてもワクワクしていました。三日間で、いろいろな場所に行ったり、たくさんの方との出会いがありました。僕は、長南さんの家にホームステイしました。

一日目は、みんなで夜中までトランプをして遊びました。

二日目は、地元のお祭りの日でした。おみこしをかついだり、町内の手伝いをしたりしました。その日は、とても暑かったのですが、とても気持ちよかったです。それから夜は、温泉に、連れて行ってもらいました。とても気持ちよかったです。

三日目は、仙台交流最後の日です。その日は、新聞社とかまぼこ工場に行きました。かまぼこ工場でお昼ごはんを食べました。その



後に空港に行きました。

仙台交流は、色々な体験ができてとても楽しかったです。また仙台に行けたらいいなあと思っています。

今回グッピーさんは、バレーボール部の方の家にホームステイを受け入れて頂きました。

丁度、福住町内会の夏まつりで子ども達は大うちわでおみこしを先導し、たいこをたたいたり売り子体験や花火など、わきあいあいとしていました。

また、午後は、サンビアのプールで競泳や遊びに夢中のようにした。夜は高砂バレーボールの監督さんも一緒に多賀城にある極楽湯でいろいろなお風呂に入っ楽しんでいました。

また、白老町は、新幹線が走っていないので次回は利府基地見学をさせたいと思います。次年度は、ぜひ白老町に家族と一緒に行ってみたい

いとの事でした。

(ホームステイ先 高砂バレーボール 長南さん談)



気をつけて帰ってね

ジュニア・リーダースクール

毎年3月に行われていたジュニア・リーダースクールが夏に変わり2回目を迎えました。今年は8月17・18・19日の2泊3日、泉ヶ岳青年の家で団員48名、指導者3名、リーダー15名で開催されました。今回は、数ある活動の中でネイチャーゲームをとりあげてみました。



◆ネイチャーゲームってなあに？

ネイチャーゲームとは、自然との一体感を得る「自然への気づき」と自然から得た感動をわかちあう活動（ゲーム）である。

自分のもっている感覚（五感）を使って自然のもつ美しさ、静かさ、やさしさ、厳しさなどにふれあい、自然のしくみや力強さを感じることである。

◆ネイチャーゲームの発案者は？

1975年、アメリカのナチュラリスト、ジュセフ・コーネル氏の提唱した環境教育プログラムである。彼は音・色・匂い・形・生き物など自然のおりなすようすを自然の中で発見することが人間形成にとっていかに大切であるかを説いている。

木の实を利用しながら、木の誕生に一役かっている生きものたちがいましたね。また、木が生きていくための栄養を育んでくれる土の世界も探検しました。そして互いに関わりながら成長していく、林の中の世界……。一本の木の成長には、様々な自然や生きもの、大切な役割を果たしていることに気づいてもらえたでしょうか。

今日は木についていろいろな発見がありました。私たちと同じように、木にも一本一本に個性がありました。四季を通じて様々な自然と関わりながら、今の姿に成長して立派な林を作り上げてきたのです。考えてみると、それは私たち人間の一生に置き換えることもできるのではないのでしょうか。それは、同じ人間同士はもちろん、様々な生きものや自然に助けられて生きているからです。

この地球上の生きものは、決して自分だけで生きることにはできないのです。そのことを思い返しながら今回の行事を終えたいと思います。

木にも心臓があるんだね！



広瀬ミニバスケケット

副キャプテン 林 雄太

ぼくは、この三日間でいろいろなことを学びました。

一つ目は、リーダーはみんなを支えなければならぬことです。リーダーは、みんながやっていることを助ける役目なのだとこのことをリーダーや先生から学びました。

二つ目は、みんなが協力することです。みんなの心が一つにならないとスポーツはなりたないことも学びました。

三つ目はスポーツだけが全てじゃないことです。地域の行事などの活動に参加したりして同じ地域の人との交流を深め近所の友達やいろいろな人たちと仲よくすることです。

新しいスポーツではありませんが、最近団や団員が増えている少年団を順次紹介していくコーナーを設けました。今年は空手とトランポリンを紹介します。

空手

ライバルは自分

青葉空手道

附属小五年 山口 万里奈

私は、夏休みに、スポーツ少年団のジュニアリーダースクールに参加しました。初めて会う人達と合宿するので、友達ができるかどうか、最初は心配でしたが、自分達の習っているスポーツの話などをして、すぐに仲良くなりました。学校以外にも多くの友達ができたことは、うれしいことでした。

「空手を習っている」と言うと、友達におどろかされることもあります。私も、空手を始める前は、大男がカワラをわったり、力比べをするようなスポーツだと思っていました。でも、空手を始めてみたら、自分が思っていたのとは、ずいぶんちがいました。基本では「突き」や「受け」を習いますが、それを応用して、相手と対戦するのが、「組み手」です。



たくみ 庄子 小 多米

「形」は、突きと受けとが組み合わされていて、対戦を考えている時の有効な作戦、といった感じですが、動きの一つ一つに大切な意味があって、

それを考えながら形を練習するのは、楽しくもあり、むずかしくもありです。競技会に初めて応援に行った時は、強さよりも、

高校生のお姉さん選手の形の動きの美しさにびっくりしました。いつか私も、こんなふうに形の選手になりたいと思いました。習って三年になります。仙台市民武道大会に出て、



形で五位になりました。とてもうれしかったです。今度はずっと上位を目指したいと思います。形を習っていくうちに、空手にはたくさんの流派があることが分かりました。私が習っているのは、「沖繩剛柔流」という流派ですが、沖繩で生まれた伝統のある流派だそうです。遠い昔、武器を持った人から、素手で自分の身を守るために、生まれた武道が時代をこえて、今も受けつがれていることは、すばらしいことだと思っています。

空手を習ってから、（気持ちが強くなったな）と思うことがあります。それは、空手の練習をがんばると、勉強や水泳、ピアノの練習など、その他のことでも、（もう少しがんばってみよう）という気持ち

ちになれるからです。師範はいつも道場で、「練習は自分との戦いだ」とおっしゃいます。きっと、空手だけでなく、どんなスポーツでも、自分と戦って上達していくものなのかな、と思います。

トランポリン

オリンピック種目にもなったトランポリンは、中世スペインにおいてフランス人のデュ・トランポリンがトランポリンの基となった用具を考案しました。現在使用のものは、アメリカ人のG・ニッセンが作ったものです。

特徴は連続的に床や地面での三〜六倍の滞空時間があり複雑な変化のある技が行えます。足以外の背・腹・膝・よつんばい・長座姿勢での着床が可能で他の運動ではできない技を有効に使うことができ、能力に応じて老若男女が楽しめます。トランポリンは、競技スポーツだけではなくレクリエーションスポーツや障害者スポーツとしても活用できます。

子どもの空中感覚を養ったり水泳のダイビング、体操競技やスキーの空中感覚を養うなど各種スポーツのトレーニング手段としても活用されています。

トランポリン競技については、後日機会があれば述べることにして指導者のもとに安全に行うことがなによりも大切なことです。

〈指導者談〉



トランポリン

仙台ジュニアトランポリンスポーツ少年団 下山 誠

トランポリンを始めたきっかけは、僕が二、三歳の頃姉達が先にトランポリンを習っていたからです。最初は、遊びとして、グー・チョキ・パーなどの技を跳んでいましたが、中学生になってから、前方宙返り、後方宙返りなどを習う様になり、おもしろさが分かるようになりました。

宙返りを始めたころは、すごくこわく感じ、目がまわりそうでなかなか思い切ってまわれませんでした。しかし、こわいからといって、中途半端なところで気をぬくと頭から落ちてしまい、とても危険なので、勇気をふりしぼって一気に回ります。でも、一度感覚をつかむと、だんだんとうまくできるようになり、毎行くのが楽しみになりました。

トランポリンには、いろいろな技があります。まっすぐ跳ぶ垂直跳び、腰落ち、ひざ落ち、スイブル、ヒップス、ローラー、タック、バイク、ストラドルバウンス、前宙、後宙と、それぞれの技にひねりを加えた技などたくさんあります。その技を十個つなぎ合わせて試合をします。途中で止まってしまうと、そこまでで、試合は終わってしまいます。点数は、難度点も加えて出されます。

僕は、今までに、宮城県大会、東北大会などの試合に何回か出たことがあります。昨年行われた宮城県大会では二位、おとし秋田県で行われた東北大会のCクラスでは七位、岩手県で行われた大会では十位入賞しました。試合の前にはとても緊張しますが、少しでも良い演技をしようと頑張っています。頑張ることの大切さをトランポリンで知りました。この経験を今後も生かしていきたいと思っています。

太白区スポーツ少年団の 活動状況について

太白区支部長

〈サッカークラブ〉 市原三夫

太白支部の発足は、他の支部と同じく平成十一年三月に設立、新野支部長をヘッドとして支部活動に入りました。それからはや三年を経過、十三年度より支部長が市原に代わりましたが、この間の活動状況について報告したいと思います。

支部活動として計画の基本と考えられるものは、団員相互交流の場を持つことと、指導者同士の研修の場、交流の場を持つことが二本の柱となるのではないかと思います。

一つ目の団員相互交流については十一年度にドッジボール大会を五会場で五二七名の参加により実施した。十三年度は組織拡大も含めバレーボール大会を企画したが、別大会と重複してしまい、平成十四年に延期となりました。同一種目でも、上部団体の加盟の仕方では、難しさがあることを知りました。

指導者の研修については、「指導者と親のためのスポーツ現場での応急処置」や「発育期の子供の体と心の特徴と指導者・親の注意すべき諸問題」についてそれぞれ権威ある講師を招いて二時間程度の研修会を開催しました。参加者が約六十名で加盟団及び指導者数から見ると少ない感じしております。

その他では、太白スポーツ少年団は地区体育協会の加盟団体であり、その関連で区体協を通して区行事への参加を行っております。

どうしても種目別競技に力が入る組織だけに、全体交流がスムーズに行える様にするにはどうしたら良いかが最も大きな課題とされている所です。

これからの支部活動について

宮城野区支部長

〈剣道部会〉 大沼良雄

平成十三年は、宮城県内で第五十六回国体、そして第一回全国障害者スポーツ大会が実施され、スポーツ少年団をはじめスポーツ界は大変忙しく過ごされたことと思います。

今、国のスポーツ施策として、スポーツ振興基本計画では、二十一世紀のスポーツは国民のだけれども、それぞれの体力や年齢・技術・興味・目的に応じていつでも、どこでも・いつまでもスポーツに親しむことができ、地域住民が主体的に運営し、各人の能力に合わせて参加出来る、そして参加者のスポーツニーズに応じた指導者がいる、地域密着型の総合型地域スポーツクラブを全中学校区に、また、それを支援する広域スポーツセンターを各都道府県創設するとあります。それにより成人の週一回以上のスポーツ実施率が五〇%となる生涯スポーツ社会を実現させる。

平成十四年四月一日から、実施される完全週休二日制により、スポーツに接する機会が多くなると思われる子供達の受け皿として、スポーツ少年団に期待されることが大きいと思います。そこで宮城野区スポーツ少年団では、総合型地域スポーツクラブを、既に立ち上げている地域団体（他県）よりその情報を収集し、早急に少年団としての総合型地域スポーツクラブを立ち上げ、来るべき時代を背負う少年・少女たちの健全育成に努めて行きたい。

熱中症予防について

去る五月三十日エスポール宮城にて「熱中症予防について」の講演会が開催されました。

私達指導者が現役時代は、朝から晩まで休まず、水分も補給せず、それが「スポ根」だとか先輩にいわれ、しごきかじめに近いものがありました。それが今は、色々と科学的にも証明されたのです。

運動をすると身体に沢山の熱が発生し、この熱が体内に溜り体温がどんどん上昇し、命にかかわる大変危険な状態になることがあります。子供の身体は発育・発達の個人差があり、成人よりも安全への配慮が必要になります。体調の悪い時は体温調節機能も低下します。食欲や排便の状態、睡眠時間等に気を配り、直射日光を避けて熱を発散し易い着衣や定期的に休息をとるなど、体温の上昇を抑える配慮が必要です。また、上昇した体温を放散させる役割をもつのが汗です。人間の身体は汗をかいて体温を下げようとしますが、汗に必要な体内の水分が足りなかつたり、汗をかく量が少なかつたりすると、どんどん体温が上昇してしまいます。水分補給には十分気を付け、補給する水分の量が追いつかないと脱水になり、危険な状態になってしまうことを「知って」運動中の事故を「防いで」ください。体力や技術の成長が最も期待できるジュニア期の練習では、疲労による集中力の低下を防ぐために、定期的な休憩を取り入れ、こまめに水分の補給をしてください。補給する水分の内容は、適度な糖分を含んだ飲料はエネルギー源として持久力を向上させると言われています。適度な糖分と体液にはほぼ等しい濃度の塩分を含んだもので、五〜十五℃に冷えたものが良い。こ

れ等のことは、室内、室外、水上等の競技に関係なく共通して言われることです。又、一番大事なことは、ジュニアの競技者達は夢中になると、気が付かなかつたり、気づいても流れの中でアピールすることが出来ない場合もありますので、指導者達は本気になって目をくばっていただきたいと思えます。

(参考資料 大塚製薬(株)様提供)



空気のように必要なもの

RODY REQUEST
POCAR SWEAT

PART OF YOU

大塚製薬

認定員講習会

平成十四年度の認定員養成講習会が、仙台市体育館で、例年より早目の一月十九・二十日開催されました。初日は冬の好天に恵まれたせいか、体感温はかなり厳しいものを感じましたが、係員の受付設置前から、スポーツ少年団の指導に情熱をもちやしている受講生が集まり、会場内は約二百名の熱気に包まれ暖房の目盛りを下げた程です。

菅原先生の講義から始まり、夕方五時まで皆様がんばっております。

二日目も朝九時二十分から始まり、昼食の休憩をはさみ午後には体力テストや、大塚製薬さんの熱中症予防、楽しいスポーツ中でのアクシデントの対処法を学んだあと、同社のドリンクや栄養補助食品が配布され、閉講式のあと各区毎に終了証書が手渡されました。



平成十三年度 スポーツ少年団認定員養成講習会

去る平成十四年一月十九日・二十日の二日間に行き、延べ百八十三名の方が受講されました。受講された方々本当にご苦労さまでした。講習会は開講式の後次の日程で行われました。

(一日目)

- (13:00) スポーツ少年団育成の意義と原則
講師 菅原 壽
- (13:40) 単位スポーツ少年団の運営
講師 筒井 久美子
- (16:40) 人間の発達と少年期の特性
講師 郡山 孝幸

(二日目)

- (9:20) 少年スポーツ指導
講師 大沼 良雄
- (10:25) 安全の為の方策
講師 千葉 誠志
- 昼 食
- (11:35) ~ (12:25)
- (12:30) 体力テスト
講師 菅原 壽
- (13:40) 研究協議
講師 相馬 宏身
- (15:00) 熱中症予防
講師 大塚 製葉

全課程修了者には、スポーツ少年団の認定員証が、平成十四年度登録を確認ののち交付されます。

平成13年度 仙台市スポーツ少年団登録状況

	12 年	13 年
団 数	272	281
団員数	7,047	7,298
指導者数	1,197	1,279
区 団 数	青 67	71
	宮 35	33
	若 34	34
	太 62	64
	泉 74	79

平成十三年度新規入団

(登録順)

- 宮・新田卓球
- 泉・高森中男子バスケットボール
- 宮・燕沢ジュニアバドミントンクラブ
- 青・旭ヶ丘サッカー
- 泉・根白石ウイングス
- 宮・栄レディースJr
- 太・生出剣聖会
- 太・八木山柔道
- 青・吉成空手クラブ
- 太・根岸柔道塾
- 青・TEAM・SECONDバスケットボール
- 青・大沢ベースボールクラブ
- 青・三条バスケットボール
- 泉・天神沢空手クラブ
- 泉・南光台バスケットボールサザンクロス

お知らせ

- 平成十四年度
仙台市スポーツ少年団事業日程(3月~8月)
- 3月24日(日) 登録説明会・母集団研修会
(シルバーセンター)
- 4月13日(土) 仙台市スポーツ少年団入団式
(シエルコムせんだい)
- 7月26~28日(金~日) 白老交流
- 8月16~18日(金~日) ジュニア・リーダーズスクール

編集後記

平成十三年度の役員改選で当初五名でスタート予定の広報委員も一人が辞退し、前途多難と思われましたが、委員の持ち前の明るさとパワーで何とか発行する事が出来ました。これも皆さんの原稿依頼に対しての協力があつたからと感謝致しております。今後も皆さんから愛読されるように更に努力致しますので、スポーツ少年団活動の中で海外との交流とか、地域に貢献している情報等がありましたらお知らせ下さい。

平成十四年度は年一回発行の朝風を二回発行、配付するよう頑張りたいと思っています。ご協力頂き、本当にありがとうございました。

- 木須 勇治 (サッカー)
- 田原 龍子 (バスケット)
- 西山 和人 (空手)
- 松浦 文子 (トランポリン)